中国で爆増するマルクス主義専攻の大学院の背景
――「国の補助金」は尽きつつある

かつて 100 校あまりだった中国マルクス主義学院の数は、この 10 年で 1440 校あまりに急増した。「互いに騙しあいながら、一緒に国の補助金をだまし取っているのです」。

特約ライター Michelle Zhang　シンガポール発

2024 年 7 月 24 日　掲載　　※［　］は訳者が補記した。

原文　https://theinitium.com/article/20240724-mainland-school-of-marxism-studies

2012 年 9 月 24 日，河南省漯河市。マルクスの肖像画の前でバドミントンをする少年。撮影：Jason Lee/Reuters/達志影像

呉佳（ウー・ジャー）は試験に落ちた。

彼女は「由緒正しい」の研究機関にマルクス主義理論の博士号過程の履修を申請した。入学予定者リストを見ると、そのうちの一人はヨーロッパの大学で学士号を取得したのちに北米の大学で修士号を取得していたが、学士課程も修士課程もマルクス主義とは無関係だった。呉は、この候補者が認められた唯一の理由は彼の「強力な背景」によるものだと信じている。

大学内では、この行為は総称して「学位ロンダリング」と呼ばれている。これは、国内の「赤い専門機関」の最高学歴を取得することで、以前の「反動的」な海外での学歴をロンダリング（洗浄）することで、博士課程終了後に党や国家機関への就職に道を開くことができる。

呉佳も党や国家機関に就職を希望しており、それが両親の希望に従い、2017 年にマルクス主義を教える大学院に入学を申請したときの当初の意向だった。当時、中国のさまざまな大学でマルクス主義の大学院が雨後の筍のように誕生していた。北京の有名大学のマルクス主義大学院の院長は、全校の教職員会議を開いたとき、ためらわずにこう述べた。「マルクス主義の春がやって来た。」

中国共産党は創立以来、マルクス主義を指導的イデオロギーと理論的基盤としてきた。第 20 回党大会［2022 年 10 月開催］では、マルクス主義を中国と時代に適応させる新たな領域を切り開くという主要な課題を提案し、これが現代中国共産主義者の厳粛な歴史的責任であると強調した。「人民日報」は、中国共産党が中国の革命、国家建設、改革の歴史的過程で成功を収めることができた理由は、最終的にはマルクス主義の実践と、マルクス主義に導かれたからであるとする記事を掲載した。

シカゴ大学政治学部ウィリアム・C・リービス講座の楊大教授は、現在の中国の政治状況において、マルクス主義学院の設立は党の要請という面をますます強めており、それゆえに主要大学での設立と教職員の配置が加速している。

教育省の公開データによると、全国の大学に設置されたマルクス主義の大学院の数は、2012 年の 100 校あまりから 2021 年には 1440 校あまりに増加した。2016 年から 2021 年までに、マルクス主義理論は一級レベルの博士学位認定の専攻は 39 から 104 に増加し、一級レベルの修士学位認定の専攻は 129 から 279 に増加した。認定専攻数は他の学科に比べてもトップクラスにランクされています。

また、2021 年末現在、全国の大学の思想政治教育学科の常勤・非常勤講師数は 12 万 7000 人を超え、2012 年より 7 万 4000 人増加した。国家社会科学基金と教育省の「繁栄計画」も、イデオロギーと政治コースに関する特別研究プロジェクトを立ち上げ、過去 3 年間で 1000 件近くのプロジェクトが承認され、支援資金は 3 億元近くに達した。中国教師発展財団は、大学の優れた思想的および政治的教師とマルクス主義理論の学生を表彰する賞基金を設立した。

しかし、10 年近くにわたる爆発的な発展を経て、この「春」もついに終わりを迎えつつある。

博士課程の入学ができなかった呉佳に対して、先輩たちは、ここ数年の急速な建設によりマルクス主義の教育と研究の機会はほぼ飽和状態で、来年もまだこの「春」が続いているかどうかわからないので、来年もう一度この専攻の博士課程に応募するよりも、現在の（マルクス主義で修士を取得したという）有利な状況を利用してさっさと就職してしまうほうがいよとアドバイスした。マルクス主義の大学院をめぐる競争はますます厳しくなることが予想されているからだ。

呉佳はジレンマに陥った。

2021 年 12 月 16 日、中国共産党歴史館のマルクス像に見入る見学者ら。写真：Andrea Verdelli/Getty Images

国家的動員によって「春」を迎えたマルクス主義

2010 年の夏、楊柳（ヤン・リウ）は 985 大学のマルクス主義の大学院に入学した（985 大学とは中国教育省が 1998 年 5 月に策定した、中国トップ 39 の大学を含む世界クラスの大学を建設する計画を指す）。当時、マルクス主義の大学院はまだ無名で、大学入試の合格点は最下位ランクだった。これが楊柳がこの専攻を志望した動機だった。「成績が悪くても 985 大学に入学できる」、「985 大学を卒業すれば公務員試験にも有利」と彼女は言う。

しかし、彼女の父親は彼女の選択に強く反対した。父親の考えでは、マルクス主義を学ぶことは、実践的なスキルを何も学ばずに大学で 4 年間遊ぶことと変わらないと考えた。父と娘は対立したが、家族や友人から体制内の「指導者」とみなされていた遠縁の親戚が父を説得してくれたことで、父親は最終的に妥協した。

驚いたことに、2014 年に大学を卒業する直前に故郷の省の選抜生に応募する準備をしていたとき（選抜生とは、品格と学力の両方を備えた大学新卒者を地元の共産党委員会が選抜し、幹部の予備候補生として現場での実習を行う制度）、楊柳はマルクス主義の専攻が応募資格から除外されていることを発見した。楊柳は何度も問い合わせてやっと、マルクス主義は西洋からの輸入物とみなされ、選抜試験ではマルクス主義の専攻に対する「政治的信頼性」を認めていない、と知らされた。

当時はまだ、「マルクス主義の春」の巨大な波がこの辺境の省に届いていなかった。絶望的になった楊柳は、党や政府機関への就職をあきらめ、さらに同じ専攻で修士を取得して、就職することにした。

楊柳が大学院生として過ごした 3 年の間に、母校のマルクス主義学院の受験レベルが上がり続けるのを目の当たりにした。マルクス主義の学問的重点を強化するため、大学は国際関係や国際政治などの専攻をマルクス主義学院に移設し、マルクス主義理論をさらに細分化し、マルクス主義経済学、中国のマルクス主義、マルクス主義と新時代の社会主義思想などの専行に細分化した。

教育研究を充実させるため、同校は他学部からマルクス主義学部で教える教師を誘致するために非常に高額な補助金を出した。さらに、この学校は、他の大学で学ぶマルクス主義関連分野の博士や修士を同校で勤務してもらうために高い費用を払った。

「もともと私たちの大学に入学する条件は非常に高いものでした。多くの大学ではポスドク研究者のみを採用しており、博士課程を卒業するためにも非常に高い要件を課していました。国際ジャーナルに論文を掲載していることは当然でした。しかしマルクス主義の大学院の採用はまったく別枠でした」と楊柳は語った。

この時期は、学界で「マルクス主義のボーナス」と言われた時期の始まりだった。

中国でマルクス主義教育が台頭している理由について、楊大力は、共産党の観点から、マルクス主義の大学院の設立は共産主義イデオロギー教育を強化するためであり、この共産主義教育は直接的には愛国心に基づいていると述べた。その結果、現在の政治環境では、関係するすべての職員が国家動員に参加しなければならない。

つまり、大学と研究機関の間で人材の争奪戦が起こっているのだ。

馬麗紅は、2019 年に北京の有名大学のマルクス主義の大学院を卒業し、博士号を取得した。この大学は 2016 年にはすでに教育省から国家重点マルクス主義大学院として認定されていた。この学校の「知名度」により、彼女は就職活動の際には、北京の多くの有名大学や研究機関から引く手あまたであった。

就職に伴い、雇用先が北京の戸籍取得手続きをして、定住手当を支給することは基本で、多くの大学はそのほかにも、毎月十分な生活手当を支給することを約束した。

「このような売り手市場は、私のような田舎娘には想像もできませんでした。間違いなく時代の最先端にいると思いました」と語った。結局、博士指導教官の勧めで、母校に残って教えることを選択した。

彼女はその境遇に感謝しつつも、誰もが軽蔑したマルクス主義の大学院に入学していなかったら、自分の運命は違っていたかもしれないと恐れさえ感じた。

馬麗紅は湖南省の双一流大学を卒業した［中国教育部が認定する一流大学と一流学科の二つの認定を持つ大学の学部を指す。2017 年では一流大学は 42 校、一流学科は 140 大学の 465 学科が認定されている。「双一流」は 5 年に 1 度見直しが行われる］。大学受験の際、成績が良くなかったので志望校に入学するためにおこなった選択が、彼女とマルクス主義大学院との運命の始まりでもあった。

馬麗紅は大学院入学試験を受け、無事に入学し、その後博士号取得を目指して勉強した。運命の歯車が回り始めた。彼女が大学院の学位を取得する頃には、マルクス主義の大学院は国から高く評価されており、当時人材が不足していたため、彼女の修士課程の指導教官は昇進し、博士課程を指導できるようになった。そして彼女はその指導教官の最初の博士課程の学生となった。

馬麗紅と彼女の指導教官の運命の飛躍の原動力は強力だった。2019 年 11 月、教育部は「新時代の大学における思想・政治理論科目の教員編成に関する規則」を公布し、大学生 350 人当たりに一名の思想・政治教師を配置するよう求めた（思想・政治教育科目には「マルクス教義の基本原理」、「毛沢東思想の理論体系と中国の特色ある社会主義」、「中国現代史概説」、「イデオロギーと道徳の涵養と法的根拠」および「状況と政策」がある）。この規則は 2020 年 3 月 1 日から施行された。しかし、実はこの教員と学生の比率は、教育部の「高等教育におけるマルクス主義大学院の設置基準（2017 年版）」ですでに提案されていたものである。

これは直接的に、一般の学部、さらには短期大学を含むマルクス主義の学問分野の構築の急増、関係教員教師の増加につながった。

2017 年に修士号を取得して卒業した楊柳は、イデオロギー的かつ政治的な「大躍進」の風に乗った。マルクス主義大学院の修士号を取得した彼女は、他の専攻よりも幸運なことに、地方都市の中レベルの大学の教師となり、マルクス主義の原則を教えることになった。

2018 年 5 月 4 日のマルクス誕生 200 周年の記念式典で講演する習近平国家主席。写真：Jason Lee/Reuters/達志影像

マルクス主義の中国化

カール・マルクスの巨大なレリーフが左下に配置され、その周囲には労働者に扮した小さなレリーフがあり、そこから万里の長城が伸びており、「マルクス主義大学院」の金色の光で輝く文字が中央に配置されている。

これは、有名な 985 大学のマルクス主義大学院の入り口に設置されたレリーフである。この点に関して、楊大力によると、中国のマルクス主義大学院は世界で唯一、特定の「主義」にちなんで設置された大学院であるという。

このような環境は、マルクス主義大学院における強力な中国的特徴を決定づけるものであり、大学教師の楊柳から仕事の喜びと達成感を奪うものでもある。

「我が国では、マルクス主義を学ぶことは思想・政治教育の一環です。思想・政治教育が前提となれば、私たち出発点と終着点は決して学問ではなくなりますが、『マルクス主義』という看板を通して、中国の特色を備えた社会主義の優位性を実証し、中国の政治システムのさまざまな利点を見出す方法を研究することができます」と彼女は述べた。

楊柳は、大学に就職する前から、自分に仕事がうまくできるかどうかについて疑問を抱いていた。その原因は、修士論文の準備中に指導教員と徹夜でやりとりしたことにあった。

楊柳の当初の修士論文のタイトルは「初期中国共産主義者のマルクス主義実践」だったが、彼女の構想を受け取った指導教官は、いつもと違って彼女に矢継ぎ早にいくつかの質問をした。ドイツと旧ソ連におけるマルクス主義の役割とは何か？マルクス主義は中国でどのように広まったのか?レーニン、スターリン、そして中国共産党の初期指導者たちはマルクス主義をどのように解釈し、拡張したのか?　最後に、指導教官は彼女に、学者として、真の問題を研究しなければならないこと、迎合したり、宣伝したり、何かしらの利益を得たりしてはならないこと、また無断で他の研究者の考えを修正してはいけないこと、そして勝手に学術理論を構築してはならないことなどを厳粛に彼女に伝えた。

「私は良い先生に出会いましたが、残念ながら覚悟を決めるにはちょっと遅すぎました。」と楊柳は言った。この覚悟のともなう人生と、それに伴い派生する疑問から、彼女はここで 3 年間働いた後に退職した。

有名なドイツの学者フレッド・E・シュレーダーは、マルクスの筆跡を特定できる数少ない人物の一人であり、またマルクスの全原稿を読んだ今日世界で数少ない学者の一人でもある。以前は、ベルリン科学アカデミーの新マルクス・エンゲルス全集の編集委員として、マルクスの未出版の歴史ノートの整理、編集、出版を担当し、そこから新たな発見をした。

シュレーダーはインタビューの中で、いかなるレベルにおいても、マルクスはドイツ社会民主党やその他の政党が推奨するマルクスではないと述べている。「厳密に言えば、マルクス自身は反マルクス主義者でした」と述べ、民族革命や暴力革命を含むマルクスの思想のほんの一部だけが革命の指導者レーニンやその後の共産主義諸国の政治的支配に受け入れられたという。マルクスが反対した政治による経済の統制、ソビエトのような計画経済、そしてマルクスが率先して提唱した経済のグローバル化は、その後の政党や政府によって無視された。

だからこそ、シュレーダーは中国の大学で学生に講義をした際、学生たちが真実のマルクスを受け入ることができないことに気がついたと語った。

学生が受け入れることができるのは、中国化されたマルクスである。

雨後の筍のように誕生した多くのマルクス主義大学院において、マルクス主義の中国化は最も多くの教員を擁する専攻の一つである。

マルクス主義の中国化のイデオロギー的根源は、1930 年 5 月に書かれた毛沢東の「反対本本主義（本本主義に反対する）」である［毛沢東のいう本本主義とは、現実に依拠するのではなく書物や指示だけに従う傾向を指した］。「マルクス主義の中国化」という用語は、1938 年 10 月の毛沢東の中国共産党第 6 期中央委員会第 6 回会議の政治報告「新段階論」で初めて登場した。その意味するところは、マルクス主義理論と中国の国情、中国の文化的伝統、歴史との統合を指す。

このため、マルクス主義の中国化は対外的には中国共産党の政治運動として認識されており、その核心は時代の変化とともに更新され続けてきた。2024 年初頭、「人民日報」は、マルクス主義を時代に適応させる上での新たな飛躍は、中国式の近代化を成功裏に促進し、拡大させることであり、中国式の近代化とは強国を建設し民族

を復興する唯一の正しい道であるとする記事を掲載した。公式論調によって設定されたこの理論的方向性は、主要大学におけるマルクス主義の中国化研究の基盤にもなっている。

楊大力の見解では、研究の優先順位の設定や研究領域に制限を課すことは、学術研究を他人の意見に従う方向に動かし、最終的には真の学問から遠ざけてしまうことになるという。

「それはすべて決まり文句で空虚な言葉であり、実際的なものはほとんどありません」。李紹元はこのようにマルクス主義の中国化に関する教育研究セクションでの学術的議論を説明した。李紹元は中国の某大学の政治社会管理大学院の准教授で、2020 年にマルクス主義大学院の建設に多額の資金を投じた際に、マルクス主義大学院の教員不足から、他の大学院から「出向」したという経歴を持つ。マルクス主義大学院は彼に毎月 3,000 元の追加生活手当を支給すると約束した。

楊大力は次のように指摘した。「中国の現在の学術制度において、マルクス主義は第一級の学問であり、非常に強力な学術資源を有しており、強い政治的色彩を持つテーマとして独自の学術誌さえも持っていいます。もちろん、真剣に学術研究をしている人もいますが、お金や学業上の地位などのリソースや利益を求めて研究する人もおり、それがマルクス主義大学院の教員の質のばらつきを生み出しています。」

李紹元がマルクス主義大学院に出向したとき、ちょうど大学院では「マルクス主義大学院教員コンクール」活動が開催されており、教員たちはマルクス主義と現代中国のつながりや、中国がいかに新しい時代の精神をマルクス主義へ注入することに貢献したのかについて熱心に議論していたという。

李紹元いわく「とても不快でしたね。吐きそうになってトイレに駆け込みましたよ。3000 元の生活手当ために、こんなに大きな精神的トラウマに耐える価値があるのかと思いました。」

2005 年 10 月 5 日に北京で開かれていたブックフェア。男性がマルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの肖像画の下で立ち読みしている。撮影：Jason Lee/Reuters/達志影像

「税金を貪る」ことも、そろそろ限界に

事務方からの圧力と個人的な人間関係のため、李紹元はマルクス主義大学院を半年で辞任した。それまでの間、彼は自分も信じていないようなことを口にせざるを得ないことにとても悩み、友人たちに「3000 元で毎日ブルシット・ジョブだよ」と愚痴をこぼしていたという。

「学生らも授業中は寝ているのだから、適当にやればいいのでは。そんなに真面目になる必要はないだろう」と友人たちは彼を慰めました。

「学生らは話を聞いてないけど、上司はしっかりと聞いてるんだよ！」と彼は反論した。

マルクス主義大学院の設置状況を対外的に示すため、李紹元の授業には、学部長や校長、さらには教育局の高官らを含めると、1 日に最高で 7 回もの視察があったという。顔も上げない学生に向かって教壇から講義を続けるには、精神的にもかなり緊張を強いられた。視察団が撮影した活気にあふれる講義の様子の写真は、大学院や大学にある優秀若手教員の掲示板にも何度も掲載された。

「これはすべて自己欺瞞です。互いに騙しあいながら、一緒に国の補助金をだまし取っているのです」。李紹元は自分の写真が拡散されることを望んでいなかった。決して名誉なことではないからだと強調した。

楊柳も同じ気持ちだった。前に教えていた学校を退職し、企業への就職も考えたが、あれこれ回った後、指導教官の紹介で母校に戻り、マルクス主義大学院の事務職員となった。

事務職員になった彼女は、中国共産党の最高指導者たちが公に行ったさまざまな演説と、その背景にある時代精神を常に学習しなければならないという。

「例えば、私は最近『新しい性質の生産性』を研究しており、大学院におけるマルクス主義研究の中心的な精神とより良く統合できるように、マルクス主義と『新しい性質の生産性』との間の接続点を見つけようとしています」と楊柳は語った。失業期間中に苦しい思いをしたことで、家族は彼女に、今の仕事はとても良い仕事だから大切にするべきだと繰り返しアドバイスした。

「私は常に、現在の仕事を仕事として扱うよう自分に強いてきました。個人的な価値判断は絶対にできません。そのため、毎日鼻をつまんで目を閉じて働くことしかできません」と楊柳は語る。しかし、それでもプレッシャーは続いた。

事務職員の仕事として、大学内のさまざまな教育研究機関からの書類を作成するプレッシャーに加えて、大学院の管理職（党幹部）のスピーチ原稿を準備しなければならないからだ。マルクス主義大学院は現在非常に人気があるため、大学院の管理職は、国有企業や政府機関が党員研修を実施する際の招待講演者になることが頻繁にある。そのスピーチ原稿やパワポ資料は楊柳ら事務職員が作成する。しかし、管理職が外部で講演する頻度が増えれば、当然にも職員らの負担は増大する。

「（マルクス主義の）『春の到来』のもう一つの意味は、管理職（党幹部）らの講演収入にも春が到来したということ」と楊柳は語る。「他の職員が人づてにきいたところ、大学院の管理職（党幹部）の講演料は大学院の給料よりもはるかに多いそうです。そのため、管理職（党幹部）たちは喜んで活動に参加したり講義をしたりするために講演に出かけます。みんなマルクス主義の流行という事実を利用して、手っ取り早く大金を稼ぎたいと考えているのです。まさに『この好機を逃してはならない』という格言の実践です。」

楊柳は再び辞職を考えた。しかし、過去数年間、多くの機関でマルクス主義に関する人材が採用されていたので、定員は今や飽和状態に近づいおり、その方面の専攻だった彼女にはポジションはあまり残されていないだろう。彼女は退職するまえに、どこに就職できるのか、どんな仕事があるのかを考える必要がある。

博士課程の勉強を続けたり、公務員試験を受けたり、企業で党建設の業務に従事したり、大学で思想・政治の教師になったり、教員資格証明書を取得して小中学校の思想・政治の教師になる。これがマルクス主義を専攻した学生や卒業生の主な進路として人気があった仕事だった。

しかし、最近は事情が違ってきた。

以前は、大学は専攻の違う学生がマルクス主義大学院へ入学することを非常に歓迎していたが、現在では、受験者の学部専攻と、学歴が双一流大学か 211 大学か 985 大学かを条件にしている。985 大学の博士課程卒業生は、北京や上海などの大学ではそう簡単に就職できなくなり、仕事を見つけるためには地方都市を探すしかなくなっている。

選択が努力を上回る時代は永遠に終わったようだ。

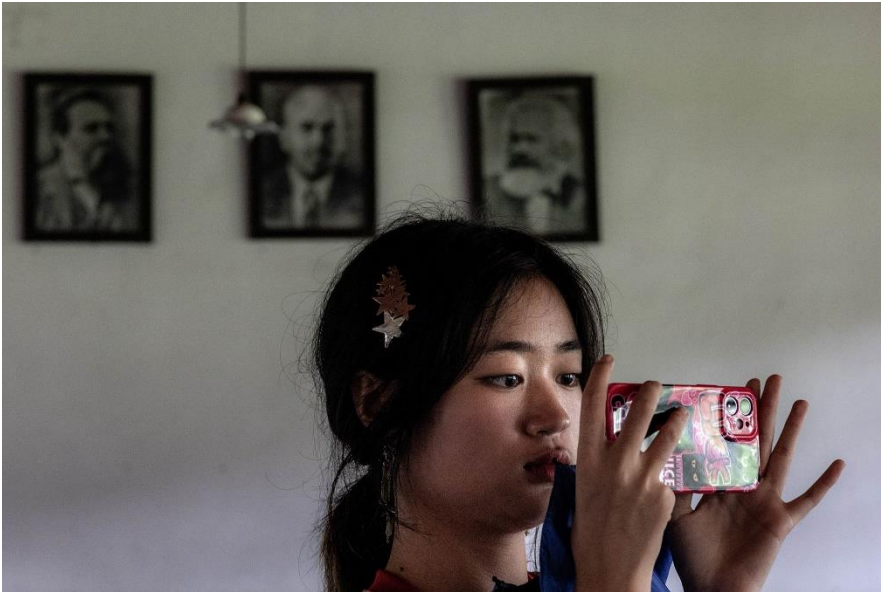
この転換はいつごろ発生したのだろうか。

「具体的な時期を特定するのは難しいです。個人的には 2021 年か 2022 年になるのではないかと思う」と李紹元は語る。2021 年は、中国共産党創立 100 周年とされる 7 月を前に、多くの大学や国有企業が党創立 100 周年を祝うために党への忠誠を表明するために多大な努力を払ってきた。さまざまな式典を通じて、指導者らとの交流を深め、突如として大量の学生や社員の入党を承認するなど、社内の党づくりも本格化していた。

しかし 2022 年以降、状況は急速に冷え込んだ。「社会全体がコスト削減と効率向上のために従業員を一時解雇している中、国有企業も無縁ではないし、経営者も愚かではない。彼らは党建設関連の職員が企業に実際の利益をもたらさないことを知っているが、しかし、彼らは依然としてこのようなスタッフを維持するために多額の資金を費やしている」と中央国有企業の子会社で総務を担当する某副社長は語った。

不必要な経費を削減するため、党創立 100 周年の「セレモニー」祝賀会の後、この副社長は企業のトップリーダーらから、目に見える利益をもたらさない党建設関係の人材を段階的に解雇するよう命令された。しかし、「上から」の命令や不定期に行われる査察に対処したり、資料の整理や党指導者の演説の資料作りなど、党建設の業務に携わるフルタイムの職員を一人は残すように企業トップに要請した。「はっきり言うと、ほかの部署への負担を減らす役割です」と副社長は率直に語った。

馬麗紅は、学生たちに、大学を卒業したらできるだけ早く仕事を見つけるよう、まず「欠員」があるかどうかを見つけるようにアドバイスしている。今後、いまの就職状況が続くとは限らないからである。

「なぜなら、マルクス主義関連を専攻した学生の就職の方向性は間違いなく『税金』を食べることだからです。教師であろうと、公務員であろうと、あるいは党建設に従事する職員であろうと、みんな『財政支出』に頼ることになるでしょう。『欠員』はすぐに奪われてしまうので、どんなに学歴が高くても役に立たないのです」と彼女は言った。

2023 年 7 月 1 日の武漢。中国共産党建党 102 週年の時に武漢革命博物館でマルクス、エンゲルス、レーニンの肖像画の前で撮影する学生。撮影：Ren Yong/SOPA Images via Getty Images

「市場テスト」の結果待ち

馬麗紅の判断は常に［労働力］市場によって測られる。

2024 年 4 月、杭州市党学校はマルクス主義理論の教育・研究スタッフとマルクス主義理論雑誌の編集者を募集したが、150 人以上のマルクス主義大学院の博士課程卒業生が応募した。この状況に関して、北京の有名な 985 大学の某教授は、2024 年にはマルクス関連専攻の博士号の価値が崩れ落ち、博士課程の学生が就職先から受け取った生活手当が減少する年になるだろうと述べた。彼の学生が就職後に受け取った生活手当は 2019 年の 60 万元から、現在では 30 万元、さらには 10 万元人にまで減少したという。

しかし、マルクス主義研究の食物連鎖の頂点にいる博士課程の学生がそうであれば、普通の大学の学部生や修士課程の卒業生といったより広範なグループの待遇の低下は、すでに危機的状況になっている可能性がある。

修士号を取得している楊柳は、早い段階で「欠員」に潜り込めたことを幸運に思うことがある。彼女が母校に戻ってから 2 年目、彼女が働いていたマルクス主義大学院は採用基準を引き上げ、事務職員には博士号の取得を義務付けた。

自分を「幸運な人」と呼ぶ楊柳は、今の職を辞めたら失業してしまうと確信している。「資料をつくるかスピーチ原稿を書くことしかできません。労働市場では私は間違いなく役立たずです。」

2023 年に他校の大学院に入学できず、母校のマルクス主義大学院に入学した李夢実も、非常に不安を抱えている。大卒就職率の低下が続く中、各大学は就職率の数字をより「きれいにみせる」ため、大学院生や博士課程の学生の入学のさいに、自校卒業生（既卒者）の入学を優先することにした（修士号または博士号の過程に進学した者は大学就職率統計の「就職」欄に記載される）。

この暗黙のルールの恩恵を受けた李夢実は、将来について不安を抱えている。彼がいる 985 大学のマルクス主義大学院の 2024 年の修士課程卒業生のうち、博士号試験に合格した者を除いて、半数近くはまだ内定をもらっていないからが。内定をもらったうち、党学校で党理論構築の業務に携わるか、公務員試験に合格した学生が比較的良い選択肢といえた。

「しかし今では、マルクス主義専攻の学生が公務員を受験しても優遇はありません。法律、文学、政治、歴史、その他の分野の学生と同じ条件で試験を受ける必要があります。競争のプレッシャーは依然として非常に高いです。思想政治担当の教員やマルクス主義原理を教えることは、私にとって非常に苦痛です」と李夢石は語る。。

就職に成功した人たちも楽な生活を送っているわけではない。沈燕は李夢石の修士課程の先輩で、2022 年に修士号を取得して卒業した後、地元の市の党委員会の党学校に就職し、地元の幹部にマルクス主義の原則を教える研修を担当している。マルクス主義理論を用いて、共産党幹部が習得すべき理論的知識と必要なイデオロギーを説明する。

しかし、この仕事を一年半続けたが、沈燕は退職することを決意した。彼女の月給は 5000 元にも満たず、講義のほかに、延々と続く会議に出席し、延々と資料を書き、毎日午後 9 時まで働かなければならなかったからだ。さらに、より重要なことは、中央政府が発行した文書と上級指導者の演説に矛盾があることがあるということだ。彼女は党学校の講師として、そのような不正確な点に対処する際には特に注意する必要がある。もしズレが発覚すると重い処分を受けるからだ。沈燕と同僚は、こんなわずかな賃金のわりに、常に警戒する必要があるこの状況を「小さなお寺が妖怪の台風に見舞われる」とひそかに表現した。

大きなプレッシャーの中、沈燕はもう耐え続けることができなくなった。退職後、彼女は何年も前に両親が設立した貿易会社に就職したが、このような「里帰り」は、党や政治的人脈を親の会社のビジネスに活用できるという両親の期待に沿うことはできなかった。 彼女は「両親は間違いなく私に失望していますが、あんな火中の栗を拾うようなことはできません。私は絶対にあの炎には近づきたくないです」と語った。

呉佳も「火中の栗」というたとえに思うところがある。 「党に従わないと生きていけないという職業柄、高学歴者が珍しくなくなった今、能力そのものよりも能力以外の資質の方が重要になっています。私が博士号試験を受けたとき、結局、学歴ロンダリングの受験生に負けました。それがいい証拠です。今後もマルクス主義の看板を掲げ続けようとすれば、党内で頼りになる上級幹部の後ろ盾が見つかるまでは、党の暗黙のルールを受け入れ、秩序に従わなければならないでしょう」。

楊大力は「今日の中国では、マルクス主義大学院にいれば、政治的昇進、国家財政による支援、国内トップの雑誌に寄稿する機会など、他の学問分野よりも有利な点はあるでしょう」と率直に述べた。これらの誘惑により、将来マルクス主義の学問分野の構築が学術研究の分野よりも、より政治に近くなるのは間違いない。

しかし楊大力は、この状況が持続可能かどうか疑問を抱いている。「マルクス主義大学院の急速な発展は、学術界に対する国家の財政支援にかかっています。資金が注入され続ければ、外部の世界が目にするものは、良好な雇用や高福祉などの肯定的なフィードバックとなるでしょう。しかし、その前提の下では、限られた国家資源の中で、中国の人口は減少し続けるため、マルクス主義大学院の卒業生の供給は必然的に減少し、卒業生が就職を望んでも困難になる可能性があるでしょう。小中学校で思想担当の教師として働くことはできますが、教師の仕事が以前と同じように安定するかどうかも疑問です。こうしたことすべてが、マルクス主義大学院に対する国民のこれまでの態度を変えるかもしれません」。楊大力の考えでは、すべては労働力市場のテストに耐えられるかどうかということになる。

友人やクラスメートに励まされて、楊柳は市場に合わせて自分のキャリアを再計画しようと考えた。「私は、実務心理学の修士号を取得するためにさらに勉強する予定です。勉強を終えたら、公立学校で心理カウンセラーとして働くことができます」。彼女の決断は、確かに過去 2 年間の市場データに基づいている。というのも、中国の十代の若者のうつ病発症率は 20%を超えており、青少年のうつ病患者の 50%は在校生だという報道もあるからだ。楊柳によると、これはキャリアへの「道筋」だという。

「十代の若者たちの精神的健康問題を解決するために小中学校で心理カウンセラーとして働くことは、子どもたちにイデオロギーや政治教育をするよりも価値があるとおもいませんか」と彼女は語った。

本人の希望により呉佳、楊柳、李紹元、李夢実、沈燕は化名にしました。